

『立山黒部』世界ブランド化推進会議」第1回ワーキンググループ 議事録

日 時：平成29年7月28日（金）

14:00～17:00

場 所：県民会館701会議室

1 開会

2 挨拶（蔵堀観光・交通・地域振興局長）

3 座長・副座長紹介

【司会】

議事に先立ちまして、お手元にお配りしてございます名簿と配席図をご覧ください。

本来、お一人ずつご紹介すべきところがございますが、時間の関係もございますので、失礼ではございますが、座長、副座長のみご紹介申し上げます。

JTIC、SWISS代表の山田桂一郎様です。桜美林大学教授の渡辺康洋様です。

では、早速ですが議事に入りたいと存じます。ここからの進行は、山田座長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

4 議事

（1）各プロジェクトの検討状況等について

【山田座長】

早速、手元にあります次第に沿って進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。次第を見ていただきますと、まずは「各プロジェクトの検討状況等について」ですけれども、お手元にお配りしております資料の順番に沿って進めますが、個々のプロジェクトについて、各事務局からご説明いただき、その都度、ご意見をいただきながら進めたいと思っております。

●02アルペンルートの営業時間拡大

【山田座長】

まず、「02アルペンルートの営業時間拡大」について、事務局の立山黒部貫光さんより説明をお願いいたします。

【立山黒部貫光(株) 永崎専務取締役営業推進部長】

立山黒部貫光の永崎でございます。弊社はあと4年たちます2021年に、昭和46年に全線開業して50年となります。次の50年に向けて、次のステージに立たなければならない。昨年は、富山県の後押しを受けて、立山黒部魅力向上プロジェクトを立ち上げまして、本日座長でいらっ

しゃいます山田桂一郎氏に座長になっていただき、2041年、開業70周年までに、立山黒部を「世界に類をみない山岳リゾートエリア」にしようというビジョンを立ち上げたところであります。現在、弊社では、この方針に向かって、重要事項であります事項について社内でプロジェクトを進めているところでありますが、「立山黒部」世界ブランド化推進会議のプロジェクトも同じ方向を向いているのではないかと認識しております。国立公園内で事業を営ませていただいている我々としては、これをチャンスと前向きに捉えていきたいと思っています。これらの検討がなされて初めて、次のステージに乗せることができるのではないかと考えております。

このあと、プロジェクトの進行状況について担当より説明させていただきますが、ほとんどのプロジェクトは当社だけでできるものではございません。ハードルも多いと認識しております。関係の皆様とできるだけ多くの時間を費やして、同じテーブルのうえで検討して進めていくことが重要だと認識しております。どうぞ皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(立山黒部貫光株)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。出席者からご意見をいただければと思います。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

立山山荘協同組合の佐伯です。今ほど説明を伺いましたが、実際、今年の立山駅でもかなりの待ち時間が出て大変なことになっているのを目の当たりにしているところですが、混雑の問題について、これは営業時間を早くすれば解決できる問題なのか、それとも、同じ営業時間の枠の中で、運行手段、例えば、バスの増便を図るなどの方法で解決手段することはできないのか、確認したい。もうひとつは、WEB予約であれば現地でチケットを買わずにスムーズにケーブルカーに乗車できるわけですが、予約枠が少なくてすぐいっぱいになってしまい、予約がとれないということも聞いている。その辺を考えてほしい。混雑の問題とは違うのではないかと。

【山田座長】

佐伯委員ありがとうございました。他の方でご意見はございますでしょうか。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

道路交通法の規制がかかっているんですが、規制の理由は把握されていますでしょうか。

【立山黒部貫光株運輸事業課 萩原課長】

私の方では理由を把握しておりません。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

気になるのは、夜間の通行が禁止になっていると思うのですが、道路交通法の規制理由いかに変わってくるかと思っております。私の方で懸念するのは、ひとつは、夜間の道路通行ということになると、安全施設が必要となってくるのですが、例えば、電灯やガードレールなど

の安全施設をたくさんつけなければならぬことになる」と自然景観の劣化につながってしまっ
て、これが観光資源を損ねてしまうのではないか。もうひとつは、自然環境上の問題ですが、
電灯に虫が集まってくると、それを食べに哺乳類が道路に出てきて、車との事故が起こってし
まうのではないかという懸念です。ですので、営業時間の拡大も内容次第で環境省も関わって
くると思っています。

【山田座長】

他に何かございますでしょうか。今日はできるだけ多くのご意見をいただけたらと思ってい
ます。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

もう1点よろしいでしょうか。うちの室堂山荘は室堂ターミナルから歩いて10分ほどのと
ころにありますので、歩いて着ける範囲だと思っているのですが、夜、真っ暗になってしまうと、
登山客であればヘッドライトを持っていますが、持っていない観光客は非常に危ない。途中で
電話をいただければいいのですが、自分のいる場所が分からない方もいます。先日もよく似た
事態がありました。なるべく早く宿泊場所に到着してもらったほうがいいと思いますので、現
状の営業時間が目いっぱいではないかと思います。以上です。

【渡辺副座長】

資料を拝見しまして初めて知ったのですが、GWの5月4日にこれほど待ち時間があつたの
かと唖然としました。言わずもがなですが、観光は客商売ですから、顧客満足度は外せない要
素です。それがこれだけの混雑があると、せつかくの観光地での満足感が削られる、減ってし
まうのは残念だと思います。最近では、待っている間にすぐにマイナスの口コミなんかも発信
されてしまいますので、これは早急に何とかしなければいけないと思いました。いろいろご指
摘もありますように、これだけの状況をひとつの解決策で解決するのは無理ではないかと、営
業時間の拡大も一つかもしれませんが、待っている人の間隔を減らすなど、ディズニーランド
でもやっていますけれども、待っている人のためにバンドを連れてくるとか、様々なことを、
閑散日への誘導も含めて、ひとつのことではたぶん無理で、いろんなことをやらなければなら
ない。秋にもピークはあるわけですね。とすれば、かなり早急にやらなければならないので
はないかと素人ながらに思いました。以上です。

【山田座長】

ありがとうございます。各委員からご意見がありましたが、営業時間の拡大だけにとらわれ
ず、様々な形で検討を進める。特に、今回の世界ブランド化推進会議は、利活用の面もありま
すが、大前提として安全安心もポイントの一つになっていますから、このあたりのバランスも
考えて、混雑の緩和に向けて、さまざまな案、ご意見を出していただかなければならないと思
います。時間がありませんので、このあと、最後に時間があれば議論したいと思います。次の
プロジェクトに進みたいと思います。

●05-1既存宿泊施設の高付加価値化

05-2宿泊施設の建て替え・新築

【山田座長】

次のプロジェクトは、宿泊施設の整備になりますが、そのうち「既存宿泊施設の高付加価値化」は立山黒部貫光から、「宿泊施設の建替・新築」については県の方から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局(立山黒部貫光株、富山県観光振興室)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。それでは両事務局より説明のありました内容につきまして、委員の方からご意見をいただきたいと思えます。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

立山山荘協同組合の佐伯です。説明が結構多岐にわたったものでなかなか言いづらいんですが、一つは、今回初めて出てくるアンケートや、各宿泊施設、室堂地区の宿泊施設となっていますけれども、わたしはこれまでホテル立山や高原ホテル、弥陀ヶ原ホテルさんのことだと解釈していましたが、山小屋も入るといふことであれば、改めて一度、山小屋の人たちに一から説明してほしいと思えます。でないと、まるっきりわからないと思えます。何がわからないかといふと、そもそもアルペンルートができる前から山小屋はあるんです。こういう形で営業してきたわけです。ずっとこれまでつながってきているわけです。アルペンルートができたことによって、営業計画や客層が変わってくるとはどういうことか、皆さんから説明してほしいんです。逆に、どうしてほしいのかも山小屋の人たちに説明してほしい。それが、山小屋のスタンスに立ったものであるのか、それとも観光の方から見たスタンスであるのか、それを両方で協議してゆっくりじっくり考える必要があるのではないかと思えます。それは絶対必要なことだと思えます。その辺が意見の違いを生んでくるのではなからうかと私は考えております。これから本当にいいものを作り上げていこうと思われるのであれば、そういった努力を、我々もしますので、観光課の皆さんからも積極的にアプローチして、我々と話し合っただきたいんです。それが一点あります。

それから、新規にという話が盛んに出ております。推進会議の中では、きちんと説明する時間がないとかで至っていると思うんですが、もっと真剣にその辺を、全体的に審議していただきたいというのがあります。まず最初に、立山黒部エリア一帯でキャパシティが不足しているのではないかという意見がわからないんです。最初の時に、これほどこのことなんですかと聞いても、答えは返ってこない。それから、上質なものをと言われますが、上質なものは既にあるのではなからうかと。我々の感覚から言えば、ハイグレードなものはホテル立山さん然りだと思えますが、十分だと思えますし、弥陀ヶ原ホテルさんもありますし、高原ホテルさんも然りだと思えます。それ以外のものをやるということは、環境省さんにもお尋ねしたいんですが、そういう一部の人のためにキャパシティの大きなものを自然の中で占有していいものなのかと思えます。なるべく皆さん共同で、分け合っただけで自然を楽しんでいただきたい、理解していただきたいというのが基本ではないかと思えます。それを一部の人のために、そんな大きなすごい広いスペースを提供しなきゃいけないのでしょうか。未だに私には理解できないし、こ

れから先も永遠に理解できないと思っております。以上です。

【山田座長】

佐伯委員、ありがとうございました。一応ご質問という形で出ましたので、お答えいただけるならお願いしたいと思います。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

基本的には、全国的には上質な、ここでいうところの世界水準の洗練度の高い宿泊施設を誘致しようという動きはあるので、そういう取組みはあります。それはそれでいいと思います。立山の場合はというと、具体的には現行の指導、指針がございまして、立山の原生的な自然を、こんな山の上の気候条件が厳しく脆弱な自然のところでは、沢山の人が泊まる場所はなかなかないので、現在の管理計画における基準等々では、現行以上の宿泊収容率の拡大は認めないという方向で整理されているところです。ただ、いろいろ枠の中でということもあり得ると思いますし、具体的にどんな話なのか相談を受けてから考えてもいいかと思っておりますが、指導方針はそうなっています。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員はいかがでしょうか。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

非常に重要な問題なので、観光課さんからも説明は何回もしていただいているところですが、慎重に我々と協議しながら進めていただきたいというところです。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

ありがとうございます。もちろん、おっしゃっていただいたことは、慎重に十分にお話をしていることではございますが、申し上げますのは、一部の方々のためだけに何かやるということでは全くございません。「上質な」ということも、様々な定義があるということではございますが、要するに立山黒部エリアに来ていただいた方々のニーズに沿った宿泊施設、多様な宿泊施設が整備されるべきであると考えてございまして、決して一部の方々はどうということではございませんので、そのあたりも今後お話し合いをさせていただき、ご理解いただくように努力したいと思っております。

【山田座長】

ありがとうございました。今回の世界ブランド化の推進という部分では、目指すべき方向性という中で、やはり多様な受け入れをどう考えるかというところが一つ検討で、このあたりは委員の方々に捉え方が違うかなというところと、多様性という部分では、今後それに沿った形の進歩ないし進化を既存事業者の方々にもお願いしなくてはならないことでもあると思います。それと、現状維持していくのではなく、この地域全体で世界ブランド化していくというところに向けて、どうみんなで頑張っていくか、経営努力していくかというところにかかっていると思いますので、このあたりは是非、先ほど調査という話もあったんですが、佐伯理事長の方か

らももっと時間も作って色んな議論もとの話もありましたので、そのあたりをよく整理していただいて、支援の仕方も含めて、今後検討いただければと考えます。

検討項目が多いものですから、次のプロジェクトに進みたいと思います。

●06滞在プログラムの充実

【山田座長】

次の「滞在プログラムの充実」について、こちらも立山黒部貫光から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(立山黒部貫光株)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。それでは、この説明につきまして、委員の方からご意見をいただきたいと思いますが、ここはまず森田委員からいただいてよろしいですか。

【株エコロの森 森田代表取締役】

現状、当社も室堂の方でツアー事業をさせていただいております。前からお話しさせていただいているとおり、有償でのツアー事業者が少ないのではないかと考えていることと、あそこは現状、登山の方もいらっしゃいますし、お子さまの登山もありますし、その他、スキーもありますし、色んなプログラムができるのではないかと思います。そういった意味で、このようなガイドが組織化されるのは非常に良いことではないかと思います。とはいえ、現状無償のナチュラルリストも入るのかとか色々わからないこともあるんですが、その他、ツアーデスクで販売するということですが、ツアーデスクの組織はどういう組織か、アルペンルートさんがやるみたいなき感じですが、組織の主体を知りたいということと、その辺はこれから考えるということでしょうか。私の考えでは、あそこにガイドツアーがあつて、お客さんが楽しめるプログラムが増えることが理想的で、実際、今うちしかやっていないからうちの会社としてはいいんだけどそうも言っていられないし、競争があつた方が発展することもありますので、多くのガイドがいて、ガイドツアーを楽しむという文化が育つことが非常にいいと思います。

【山田座長】

ありがとうございます。では中山委員からお願いいたします。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

今の話と近いんですが、ターゲットがどこなのか。TKKさんが整理されているんですが、交通事業者や行政がよくやる考え方で、室堂地区で産業としてエコツーリズムを育てようという観点で作られていない気がするんです。今のエコロの森さんのようにやっている事業者が複数になって、行政や交通事業者等がサポートに回って、そういった人たちがやりやすいようにして、そこにお客さんを作ってくれるようにしないと先がないです。TKKさんは交通事業者としてサービスの一環としてやっているのだから、視点が違うと思います。今、エコロの森さんが、

商売敵が来るのはいやけどとおっしゃったが、まさに競争ができるような状態を作るためには、他のエコツアのガイド業者さんが入ってこれるような環境をどうやって作るかを考えるべきで、それがテーマかと思うんです。そこがいまいち絞り込めていなくて、わかりづらいんじゃないかと思います。

例えば、検討課題に組織化とあるんですが、これはまさに交通事業者や行政が考えることですが、ガイド事業者さんがそれぞれやっているから組合を作ろうとしてもなかなか辛い。屋久島でも組合を作るのに相当もめていたりするんです。だからこういうことをやっていったらいいと思うんだけど、それを作ったことによってガイド事業者に何のメリットがあるかということなんです。それが大事で、そもそも組合を設立して何がやりたいのか、何を目標として組合を設立するのかが不明確な上に、それがはっきりして初めてそれをやるからこそガイド事業者側にもメリットが発生して組合に入ろうとなる訳です。そこはウィンウィンじゃないとおかしくて、書いてある運賃の減免なんてメリットの最たるものの一つだと思うんですが、そういったことをきちんと考えた上で初めて組織化って言うことになるんじゃないかと。考えていく順番が逆かと思います。ただ、個別には、ツアーデスクの設置なんかは交通事業者じゃないとできないから、ガイド事業者には相当大きなサポートになるのでぜひやった方がいいと思いますし、間違っているというわけではないので、少し切り口を見直した方がいいんじゃないかと思います。

【山田座長】

ありがとうございます。このあたりはどうでしょうか。副座長の渡辺委員からもご意見をいただきたいと思います。

【渡辺副座長】

いわゆるマーケティングでプロダクトアウトとマーケットインというのがあろうかと。どちらがいいかということは別として、現状を拝見しておりますと、どちらかというプロダクトアウトかという気がします。当然ながら、目指さなきゃいけないのは、ここに来られる方々がプログラムに参加されて満足されるということが必要です。そのために、マーケットインでお客様が何を求めているか、ここでいうお客様というのはそれぞれの層ということになるんですが、満足できるかということ調べなきゃいけない訳です。どっちが先かという議論がありましたが、そういうことをするためにも組織が必要なのかもしれません。1番から5番までありますが、素人ながらに見ていますと、現状どれが一番売れているのかという気がするんです、いつの時期が一番売れているのかとか、そこがマーケットインのスタートだと思うんです。そういう意味で、基礎的なデータをとるためにこの組織が必要かと思います。

いずれにせよ、大切なのはお客様目線という、使い古された言葉ですがそこに皆が、関係者がどう立っていくのかということを考えていく必要があるんじゃないかと思います。そのため色んなことをやらなきゃいけないんじゃないかという気がします。

【山田座長】

ありがとうございました。いかがでしょうか。佐伯理事長からお願いいたします。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

これに関していうと、私から言う立場ではないかもしれませんが、地元の立山のガイド協会さんをご存じだと思いますが、ここに書いてありますトラバースの大塚憲一君もガイド協会に入っておりますが、佐伯知彦君は昔の仲語を目指すと。仲語というのは、地獄谷や室堂近辺を案内するのですが、そういうスタンスの山のガイドもいます。山のガイドだからといって山奥ばかりを案内しているわけではなく色んな企画もします。これは相当昔に、二十数年前からできております。全国的な組織にももちろん入っておりますし、環境省の認可団体ですし、国際ガイド連盟にも加入しており、かなり信用のあるものだと思います。そういう人たちを取り込まないのか。入りたくないと言われるかもしれませんが、一度お話を聞かれるのもいいんじゃないかと思っております。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。永崎専務お願いいたします。

【立山黒部貫光(株) 永崎専務取締役営業推進部長】

色んな意見をいただきましたので、これを推進していく立場として、いただいた意見を参考にしながら色々やっていきたいと思います。ただ、言い方が色々ありましたので、ガイド組合の設立についても皆さんから何件かご意見をいただきましたが、プラットフォームを作らなければいけない。どこかがまとめ役をしないとなかなかお客様が個々の旅行会社にやるというわけにはいきませんから、そういう意味でのプラットフォームが必要ではないかと考えております。それから色々なお話が出ました。お客様のニーズが多様化していて、アクティビティも沢山出てくるので、それに対応した形でお客様にご案内したい。それを色々な業者さんにやっていただければいいと思うので、相談しながらお客様のニーズに応じていくという立場のプラットフォームを私どもはこれから臨んでいけばいいのではないかと考えておまして、そのために皆様と協力していきたいという立場でございます。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員どうぞ。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

TKKさんにやっていただけるというのはすごく心強いと思います。各地でそういったものを立ち上げようと努力しているんですが、立山室堂の場合すごく特殊で、交通機関が特殊だと。なかなか通常では交通機関が支援してくださるというのではないんです。ここでそういうような形で体系的に協力してくれるというのは、ツアーガイドの方を前にして僕が言うのもなんですが、相当心強いと思うんです。そこは、うまく整備することによってモデル的なものが作れる可能性もあるので、是非我々も協力していきたいと思います。

【山田座長】

ありがとうございました。この件に関しましては、座長の私もお話したいことが山のようにあって、立場的に時間を割いてという話にはならないんですが、これまでのプロジェクトの

営業時間にしても高付加価値化等々も含めて同じなのは、今後、私たちがどういう多様な受け入れでお客様に楽しんでいただくかというところにあると思います。そういった部分で、先ほど中山所長からターゲットみたいな話がありましたが、それ以上に、今後、この立山黒部が世界的にどういうポジションをとれるのか、どういうことで楽しんでいただけるのかを世に知らしめていくのかというところがとても大事だと思うので、充実という部分では、今日ここで色々な方たちが連携しないといけないということがはっきりしましたので、お互いに更に協力関係を強化していかないと充実したプログラムにはなっていないと思いますので、検討いただくときにそのあたりも頭の片隅に置いておいていただければと思います。

次のプロジェクトの検討に入りたいと思います。

●07-1アルペンルートの開業日のルール化

【山田座長】

今度は「アルペンルート of 早期開業」について、こちらでも立山黒部貫光さんから説明いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(資料に基づき、事務局 (立山黒部貫光株) より説明)

【山田座長】

この早期開業につきまして、各委員の方からご意見があればお願いします。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

まず一つ、前回少しお話しましたが、何年前か忘れてましたが11/29に国見の東斜面で雪崩が起きて人が亡くなっております。この場所をご存じだと思いますが雪の大谷の場所なんです。11月にあったということは、12月も1月も2月も3月も、ひょっとしたら4月もあるかもしれない。誰もそれを否定できないと思うんです。その安全性をどうやって証明するのか、それが分からないと前へ進めないのではないかと。我々も営業日1日で変わるものではないだろうと思いますが、誰にもそれは分からないと思う。現状でも、安全面に対してOKと言えるのでしょうか。そこに雪崩が起きないということを言えるのでしょうか。1つの例として、その後、そこで雪質のテストをして情報を我々に流してくれる。山に霧があると注意報が出た際、過去に雪崩があったところはなるべく立ち入らないような表現で伝わってくるわけなんです。過去に雪崩があったところはどこなんでしょうか。今言った場所も該当するのではないのでしょうか。そうした場合に、そこにバスを走らせていいのでしょうか。そこを雪の大谷として観光していいのでしょうか。そういう問題も出てくると思うんです。その辺を踏まえて1日早くすることであればいいんですが、この中にはそういう意味合いがまるでないんじゃないでしょうか。

今年4/15開業としたが、それが安全だ、いけそうだということを何年か見るべき必要があるのでないのでしょうか。こんなあらかじめ毎年1日ずつ早めようというのは、ある意味無謀に聞こえるんです。そうなった場合に、もし事故が起きてアルペンルートが4月いっぱいくらい営業できないことになったら、我々にとっても大変なことになるので、慎重に進めていただき

たい。我々から見て、そんなに急いで1日1日定期的に早める必要があるのかと感じます。要望は分かりますが、何年かおいて検証を行うべきではないでしょうか。

それともう一つ、この前の推進会議でも言いましたが、雪崩の研究をしている人たちにもっと予算をかけて育ててください。たまたま今、何かあるから意見を伺おうというのは虫が良いと思います。それからライチョウに関してもそうだと思うんです。もっと仕組みを作ってほしいんです。今はボランティアでやっているだけなんです。例えば、箱根には県で作った温泉地学研究所がある。極端な話で、ものすごくお金がかかるので何とも言えないんですが、このようなものを立山で作れないものなのか。温泉ではなくライチョウなどで。それがいわゆる立山の魅力の発掘につながるのではないのでしょうか。それが世界に誇れる立山のブランド化につながっていくのではないかと私は思っています。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員はいかがでしょうか。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

今、佐伯理事長がおっしゃったとおりでと思うんですが、一言でいうと、無責任、非科学的、何でもこのようなことが言えるのか全く理解できません。つまり、理事長が言われたとおりで、危険なんです。TKKさんが一番よくご存じなんじゃないですか。科学的な検証があつて、着々とひとつひとつという話でしかなくて、それを単にルールとして、分かりづらいからという理由でそんなルールを作るのは冗談じゃないと思います。本当に人が亡くなったらどうするんでしょうか。人命軽視も甚だしいし、それはそのまま立山のブランドに傷をつけることに他ならないです。雪の大谷が崩れて人が亡くなったらどうするんですか。3つほど危険なことがあつて、1つは、ちゃんとヒアリングをしていただきたい。道路を管理している方や現実に除雪されている方に聞いてみてください。今年1日早めるのにどれだけ危険だったか。そういった話がうちの担当課の耳には入っているんです。この間、立山町長も業者の方に「俺たちを殺す気か」と言われたという話をされたと思うんですが、そのように状況は非常に厳しく物理的な問題なんです。物理的な問題を社会の都合で変えることはできないんです。4/10と言ったが、過去に4/10に全面開業していた時期はあるんですか。

【立山黒部貫光(株)営業推進部 佐々木次長】

ないです。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

ないですよ。それすらも過去にはないんですよ。つまりそれだけの理由で無理やり早めてしまうと、どれだけ危険なことなのか想像力がなさすぎると思います。

2つ目は、お客さまが早い時期に入り込むことによって、遭難する可能性が高まるということです。この時期の山は1日、2日で状況は変わってくるので、経験的に4/15くらいで収まっているわけで、これが次第に早くなればなるほど、雪崩、ホワイトアウトなどにお客様が巻き込まれて命を落とす危険が大きくなるはずなんです。

もう一つは、運行上の問題もあると思うんですが、今年の運行開始の4/15はホワイトアウト

で大変なことになっていました。あんなことが増えるのではないかと思います。ですから、その辺のことをデータを取ってきちんと検証してください。07-1というのはまさにそのような話ですが、私は07-2について否定するつもりはないです。だから、科学的に実証されて前倒しが可能なのであれば、山岳警備隊や山小屋の皆さんなど実際に携わっている方々にヒアリングしていただいて、時間をかけて検証されて行うのであれば構わないんですが、このようなずさんなやり方はやめてほしい。お願いします。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員からもご意見はないでしょうか。今の意見に対しての事務局からの意見でも結構です。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

立山黒部貫光さんは07-1と07-2をセットで説明された方がよかったかもしれないが、早めていくことに関しては07-2というプロジェクトがあり、こちらでデータ収集等を行っていくこととしておりますので、まさに所長がおっしゃられたことを行っていくことになると思います。

●07-2更なる開業日の前倒し

【山田座長】

それでは07-2の説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(立山黒部貫光株)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。通して議論してもらってもよかったんですが、私が切ってしまったので、07-1での各委員の方からの意見に対して説明する形になりましたが、意見はないでしょうか。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

私が先ほど申し上げたのは、07-2を検討せずに07-1を行うことはできないということです。そこは明確にしておきます。

【山田座長】

ほかにありませんでしょうか。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

開業日のルール化というのが、「開業日を決定する日をいつにするか」という意味であれば理解できるんです。来年いつ開業するかを、例えば5/10や6月いっぱいくらいまでに決めようということであれば理解できるんです。そのときに、では来年も何日にしましょうと改めて結論を出すという意味合いであれば、我々もお客さま向けにHP上に挙げなければいけないし旅行

会社とも契約しなければいけないので、ある程度早い段階で決めるのはよいのではないかと思います。ただ、決める内容については、先ほど言ったようなこととなりますので、十分な論議、データ検証なるものが必要になってくると思います。

●08アルペンルートの冬季営業の試験的实施

【山田座長】

それでは引き続き、「アルペンルートの冬季営業」の話について、立山黒部貫光さんから説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局(立山黒部貫光株)より説明)

【山田座長】

この件について、委員から意見をお願いいたします。

【関西電力株北陸支社 二階堂総務部長】

関西電力の二階堂でございます。現状を報告いただきましたが、冬季の現状として資料の3ページ目に12/1から翌年の4月中旬まで冬季閉鎖となっておりますが、吉沢から扇沢間を管理しておられる長野県の方で、ヘアピンの所も含めて雪崩の非常に多い区間ということもございまして、安全上の観点から冬季閉鎖とされております。ただ、我々も含めて電力供給等の要員の交代の度に、そういった者に限り通行させていただいているという状況でございます。今後、冬季運行となった場合は、交代要員や弊社の工事の調整をさせていただくことになると思うんですが、まずは冬季閉鎖の状況を長野県様も含めて理解してもらっていくのが必要になってくると思っております。以上です。

【山田座長】

他の委員はいかがですか。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

安全対策を実施するということですが、それは交通機関としての安全対策ですか。我々が一番懸念しているのは、厳冬期に非常に激しい雪崩が発生している時期に、お客さまを運び込んで、そのお客さまをどう管理するのか。究極にはホテル立山から出ていただかなければいいんですが、おそらくそうはいかないですね。スキーを背負って上がっていく人もいるだろうし、そういう方々を出すということは危険極まりないと思います。以前、うちのレンジャーがTKKさんへ、スキーを背負って入ってくるお客さまへスキーを載せないようにというお願いをしたことがあるんですが、TKKさんに断られたと言われたんです。要するに、そういうことがきちんとできないと厳しいのではないかと思います。外に出られると終わりなので。厳冬期の立山は、私は以前、冬山をやっていたので分かりますが、恐ろしくてなかなか行ける場所ではないです。そういった場所を一般のお客さまに与えて管理するのは相当厳しいと思います。それが最大の問題点かと思えます。ちなみに、私の知り合いの学者に、そんな恐ろしいことを

よくできるなど笑われました。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

この話を聞いたときに、うちの組合員に話したら、「冬に本当に行く気はあるか。」と色々な意見がありました。一つは、11月でも、最初は除雪をするのでいいが、1m、2mとなると、雪が降っていなくても風が吹いただけで舞ってしまい、除雪しないといけない。甚だしいときは1日1便だけ、除雪車先導でその後ろにバスが付いて運行している。そのときにすぐ後ろに付けばいいが、距離が開いたら脱輪してしまうときもあるらしいんです。脱輪したら、それを引っ張り出すのに時間がかかり、周りじゅう雪だらけとなってしまいます。11月ですらこうなのに12月、1月、2月となると本当に実施できるのか。もし悪い条件が重なりバスが3、4日取り残されたら、ヘリコプターでも救出できないですよ。そういうすごい事態になるのに安全面を考えているのだろうか。また、3、4日雪が降って晴れたら、一番雪崩の危険があります。そして、また吹雪始めるということを繰り返していたら、いつ運行できるんでしょうか。それを冬中繰り返しているわけなので、検討していただいてもいいが、感想として組合員が言っていました。

【山田座長】

物理的な問題以上に、安全面、安全性の確保が非常に大きな問題だと思うので、この辺りはさらに色々な角度、視点からの洗い出しが必要かと思います。

●09黒部峡谷鉄道の冬季営業

【山田座長】

続いて、「09黒部峡谷鉄道の冬季営業」について、事務局から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(黒部峡谷鉄道株)より説明)

【山田座長】

委員からの意見をお願いいたします。先ほどのアルペンルートの早期開業を含めて、冬季営業のことについてはどうしても安全面というのが非常に大きな課題だと思いますが、それ以外のことについても結構です。

それでは、安全面に対しては先ほどからたくさん意見を伺ったので、次のプロジェクトの検討に入りたいと思います。

●12 カルデラ体験学習会の旅行商品化

【山田座長】

次は「12カルデラ体験学習会の旅行商品化」ということで、県観光振興室から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(富山県観光振興室)より説明)

【山田座長】

今の説明に意見はないでしょうか。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 金子副所長】

立山砂防事務所の金子と申します。まず、今、説明いただいた中の旅行商品化に1つ意見があります。第2回検討会のときにも話をしたと思いますが、基本的に砂防事業のエリアの中に入ってくるようになります。安全でないところで受注者が砂防工事をしている前提の中で旅行商品化されて、一般の、非常に安全管理の知識が乏しい方を呼び込んで、安全確保をどうしていくのかというところが、今の説明の中で確実に抜け落ちている。ここは再度、色々な検討をされる前に、前提となる安全確保をどうするかということを検討いただきたいと思います。

それに類似しますが、砂防工事内で当然のごとく工事用道路を走行されるかと思いますが、雨が降れば当然のごとく規制をかけます。時間雨量20mm、30mm程度でカルデラ内から出られなくなるという現象も発生しうるということを再度ご認識いただいて、発生そのものを避けるのか、リスクを踏まえて旅行商品として動かされるのか、今、実際に体験学習として実施しているから実施できるということではありませんので、そこは改めてご認識いただきたいと思います。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。それでは事務局の方から。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

安全対策と雨天時の対応の2点ご指摘いただきましたが、十分認識しております。現在行われているカルデラ体験学習会の枠組みを基本的に維持しまして、それをより広く多くの方に知っていただくというところがこのプロジェクトのみそとっており、その部分について取り組んでいきたい。その際には、当然今ご指摘がありました安全対策ということも考えていくことだと思っております。雨天時の対応につきましても、当然ながら、危険が発生して雨天で通行できないということでしたら、例えば、博物館等もございますので、そういったところで対応するのかあるいは別の対応があるのかというところが、検討していくところだと思っております。以上です。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 金子副所長】

1点補足させていただきます。私が申し上げた「安全確保」と、「安全対策」は目的が別で、「安全確保」というのは、そこに参加された方をいかに守るかという視点であり、「安全対策」というのは、そこに来られる方を通常、普通に生活できるようないろんな面でハードとして実施するという認識しているので、カルデラ内で安全対策が完璧にできるということはありません。平成23年の突然山が崩れたように、突然巨大な石が落ちてくる場合もありますし、土砂崩落して道路が通行止めになる可能性もありますので、ハードとして安全対策として実施できることはほぼないと思っていたほうが今後の検討には生かせるかと。その中でいか

に参加された方の安全確保をどうされていくのかというのが、カルデラ内で行動するうえで一番重要であるという認識でございます。以上です。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

対策というのか確保というのかという日本語の問題で、副所長がおっしゃった認識であれば、我々の認識は全く同じだと思っております。

【立山町商工観光課 小野課長】

立山町役場の小野と申します。昨年、立山町役場でインフラツーリズムをやろうということで、立山砂防事務所のOBの方に解説していく方が一番大事と思って、実証事業ということで補助し、従業員20名の方に参加していただき非常に好評だったと思っております。横江頭首工や常願寺川の沿線の堰堤を安全な場所から見学させていただいたんですが、こういったものも資源ということで、視察される際にそういった資源も合わせて視察いただければと思っております。

●15携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消

【山田座長】

次の「15携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消」について、県情報政策課から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(富山県情報政策課)より説明)

【立山町商工観光課 小野課長】

立山町です。フリーWi-Fiですが、27年度に県さんと一緒になって、黒部ダムと称名滝に設置させていただき、28年度は立山駅周辺に無料の「TOYAMA Free Wi-Fi」を設置させていただきました。問題はインシヤルコストよりもランニングコストでございまして、冬もお金を払っていかないといけないということもありまして、基本、町の方で黒部ダムのエリアと立山駅周辺のエリアを払っているものですから、こういったランニングコストの負担のあり方というのを、関係の事業者さんを含めて検討したいと思っております。また、弥陀ヶ原の場所は今は自家発電で、ぜひこれについては電気を、非常にコストが高いというのは重々承知をしているんですが、弥陀ヶ原への商用電源の確保について本気になって協議をしていく必要があるのではないかと思っております。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 金子副所長】

今ほどお話がありました商用電源についてですが、私どももカルデラ内の監視のためのテレビカメラの設置をしております。ただ、商用電源がございませんので、山荘さんと協定を結ばせていただいて電源の供給を受けているという実態がございまして、私も勉強不足で大変申し訳ないのですが、商用がなぜ通らないのかよく分からないのですが、需要と供給のバランスの中で届くのか届かないのかというところがあるかと思っておりますけれども、商用の開通に向けてい

ろんな議論がされていくのは私どもとしても歓迎したいところで、どういう判断になろうかというところを皆さんと一緒に検討していきたいと思います。

●21登山道の整備

【山田座長】

それでは、次のプロジェクトに進みたいと思います。次は「登山道の整備」について、県自然保護課から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(富山県自然保護課)より説明)

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

登山道というものは、今まで、環境省さんもそうですし県の自然保護課さんもいろいろと整備していただいておりますが、まだまだ不足なところも多いのではなかろうかと思っております。その部分に関して、この場に限らずですが、今後とも、いろんな箇所、損壊した箇所を修繕していただければと思います。緊急時は、山小屋の人が近くへ行って直すというケースも結構ありますし、常日頃から、除草、草刈等は、近辺の山小屋の方でずっと担当を決めてやっておるといっております。そんなところを含めて、その体制自身が、山小屋のオーナー自体が老齢化してできないということも出てきております。そういうことも含めまして、ちょっと課題が残るのかと思っております。自然保護課さんと環境省さんと相談させていただければと思っております。

【立山町商工観光課 小野課長】

登山道の整備ということで、アルペンルートでこれだけ整備していくと、これまで以上のお客様、国内外の方に来ていただけるということですが、やはり、先程の携帯電話ともリンクするんですけども、緊急時、ケガをしたときにすぐに携帯電話で連絡をとったり、場合によっては熊が出ることもあると思いますので、そういったことも想定して、携帯電話の通じない区間が非常に長いものですから、これももし設置したらランニングコストを誰が払うのかということが問題になってくると思いますので、そういったところも踏まえて登山道の整備をはかっていただければと思います。

【榎エコロの森 森田代表取締役】

歩くアルペンルートはとてもいいと思っておりますが、非常に長いので、途中で待避所やバスここですよみたいな表示を考えていただければと思います。トイレ、携帯が全然使えないところですので、緊急時に、通常の道路に出てバスを拾えるといった表示があるといいと思います。前の会議でも言ったんですが、海外の方が割と軽装で来られて、道に迷っているところを救助したことがあるので、歩くアルペンルートは非常に現状わかりにくいところがありますので、期待しております。

●25利用調整地区の導入と検討

【山田座長】

次は、「25利用調整地区の導入の検討」ということで、県自然保護課から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局(富山県自然保護課)より説明)

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

まず、随分昔からの流れから言いまして、スキーヤーというのは、今、相当減ってきていると思います。かなりの減りだと思います。我々が大学生、20代くらいですか、かなりのスキーヤーとスキー合宿がすごい数が来ていました。月何千人だったと思います。今はかなりの減り方をしております。ご存じかと思いますが、3年ほど前に雪崩が起きまして、その雪崩の事故を受けまして、指導が県から出ております。ビーコンの持参、登山靴といった指導が入ります。それである意味で規制という目があるもんですから減っております。それは事実でしょうがないのですが、さらに、これに利用調整地区をやられますと、もうこれは富山県はスキーヤーを歓迎していないというニュアンスさえ多分受けるんじゃないかと。先程言い忘れましたが、今年ぐらいから、スキーヤーあるいは登山ツアーですが、規制があまり厳しく、それに時間待ちが長いので来年はツアーが組めませんと。うちに限らずらいちようさんも言われたらしいです。そういう実情を踏まえていただければと思います。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

スキーの規制というのがあるんですか。ビーコンの携帯の話ですか。規制じゃないですよ。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

言葉の上では規制ではないんですが、持っていない方が多い。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

貸出しとかもしてないんですが、雪崩に遭って埋もれてしまったら大変だと。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

そういう意味ではしょうがないことだと思います。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

一言申し上げます。安全対策のためにそうしているのと規制は違うので、それをごっちゃにされるのは困ります。前にもそういうことがありましたが、それをごっちゃにされるのは困るので、それはお客様の命を守るためにルールとしてそう決めているものと、自然保護のために規制をしているのは全然趣旨が違いますから。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

規制というんじゃなくて安全面ですが、現状として、それは受け取る側の問題だと思うんですが、来られる方が一様に今言われた措置、ビーコン持参、登山届ということはある意味当然

のことで、我々も進めていることですしそれでいいですが、受け取る側としてはマイナスなんです。これは、明らかにマイナスなんです。それからもう一つ言われたのは、登山者は逆に持っていないケースが多いんです。登山者は持っていないケースが多いので、我々は決まったルートを歩いているんだから危険性が少ないから、持たなくていいんじゃないかと言われるケースが多々あります。でも、それは間違いであるのは確かなので、そういう中で減ってきているのは事実です。それは雪崩が多いから減ったのか、あるいはそういうものが三千円なり五千円なりかかってきますので、ある意味ではマイナス要素と私は思っている。そこにこういう規制、ある意味では、ここでははっきりと書いていませんが、一つ目の資料では、そんなようなことが書いてあった気がするんです。利用調整地区の設定という話がありましたよね。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

話がそれてきているので、私がさっき言ったのは、安全対策のためのルールをちゃんと作ってそれをやっていただいているわけです。それとさっきの自然保護とは違う。この利用調整地区というのは、利用と自然保護の軋轢があるような場合に利用調整地区を導入するんですが、私の意見としては、前から言ってるんですが、導入の必要があるのかどうか疑問に感じているんです。なぜかという、明確な軋轢がないからです。つまり、困っているから制度を導入するわけで、まのあたりにするような、誰もがまずいという状況がどこかにあって、そこに対して制度を導入して、なんとかしようというためにあるもので、本末転倒しているんじゃないかと思うんです。すごく厄介な制度で、私、実は知床で利用調整地区の管理責任者をしていたので、私が言ったら怒られそうですが、大変な制度なのは間違いない。本当に困っている区域しか使えないんです。

●26環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

【山田座長】

次のプロジェクトの検討に入りたいと思います。最後の「26環境保全経費の受益者負担の在り方の検討」につきまして、県自然保護課から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局(富山県自然保護課)より説明)

【立山町商工観光課 小野課長】

参考までに、立山町で立山黒部環境保全協会立山支部の事務局、6月から観光協会に事務局を移転させていただきましたが、そこでトイレの清掃事業もやっております、立山黒部の中には県有のトイレが11か所あるんですが、清掃員の賃金をトイレチップで十分カバーできているという状況でございます。また、環境保全協会はTKKからかなり多くの負担金をいただいていますので、この資料の中にアルペンルートの輸送料金に環境保全経費を付加するという表現もあるんですが、今の収益の中からかなりの経費を環境保全の方に支出されており、かなり支出されているのに環境保全にあまり使っておられないように受け取れるのですが、今でも十分負担いただいていると思っております。

それもあります、立山駅と称名滝はいずれも国立公園の中にあると理解していますが、そ

ここにマイカーで来られる方が多くいらっしゃいますので、そういった方から、マイカーでなくても電車やバスを乗り継いでアルペンルートや称名滝に行けますので、そういったマイカーに対する、例えば、駐車場に駐車したときに駐車料金をいただく、駐車料金というよりも環境保全協力金のような、車でそこに立ち入ることは環境に負荷を与えているものですから、そういったマイカーに受益者負担を求めてもよろしいのではないかと思います。

【立山黒部貫光(株)】

環境保全について弊社がいろいろご協力している件についてご理解ありがとうございます。ただ、マイカーのお客様にご負担となってくると、今、車のなかにもハイブリットを使ったお客様もだいぶ増えてきていますし、これからいろんなそういう車が出てきた場合にちょっと理解しにくい形になるのではないかと思います。それから、私どもとしては、輸送料金からすると値上げと捉えられてしまうというところもあって、この財源確保については、もう少しみなさんでいろんな意見を出して検討していただければと思います。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

進めやすいからアルペンルートの利用料金だと思うんですが、ちなみに同じ国立公園の中で梅池では、ロープウェイの料金を徴収するのと合わせて入園料という形で徴収したりという形で切り分けて、切符の中にいくらかちゃんと書いてあるということでもあります。ちゃんと明示するようにしているようです。そういう事例があります。それと、この間ある人と食事しているときに、チップでいちいち納めるのは面倒くさいので、まとめて入場券にしてくれないかと言われたんですが、そういった提案を何人かにもらったことがあって、今までチップがわかりやすいのでやってきたこともあるんですが、そういった方が良いという意見もポチポチ出てくるようになっていきます。全国的には、ここにもまとめていただいているように、屋久島とか乗鞍の鶴ヶ池の駐車場ですが、そういったいろんな形の徴収が普通になってきていて、どうしてもこの分野はお金がないところでもあるので、そういったもので維持管理を充実させていくのは最近の風潮としては普通にある話で、ぜひ私はニュートラルな立場でいいかと思っているんですが、お考えいただいたらと思います。

【立山黒部貫光(株)】

私どももお客様にご理解いただければいいんじゃないかという立場でございますので、いくつかそういう案があるのであれば検討していきたいと思います。あと、その費用を何日からやっているかということをもう少し明確にお客様に伝える必要があるんじゃないかと。外国からのお客様もいらっしゃいますので、なぜそれが必要なのか、出さなくてはならないのか多分問われると思いますので、そういうところを明確にする必要があるのではと思います。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

入山料みたいな利用者負担の有無ということですが、必要と思うときも私もあります。ですが使い方の問題じゃないかと思って私は見ているんですが、たとえば登山道整備に充てたいということがあって、受益者負担を求めたとしても、そのように使われるかどうかが一番問題じゃないかとは私は思っているんですが、梅池の場合は結局どのように使われているんでしょう。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

梅池の場合は小谷村さんが管理していて、基本的にそのお金をなるべく充当するように使っているのです、すごくわかりやすい。屋久島のケースですと、屋久島のトイレの清掃とか登山道の管理、修繕に使っています。佐伯理事長の心配はよくある話で、先程もご指摘がありましたように、わかりやすくする、上高地はトイレチップがすごく多額で若干わかりづらくなっている。トイレの管理だけだと余ってしまうので、実は、崩壊した登山道の緊急整備とか、いろんな形で使っているのです、その辺をどうやってお客様にわかっていただくかというのは宿題ということで、我々も取り組んでいきたいと思えます。

【山田座長】

時間も来ておりますので、全体を通して振り返って、ぜひこれだけは意見をという方がいましたらご発言いただきたい。また、もしよろしければ、一度もご発言いただいていない方。

【黒部市商工観光課 島田課長】

旅行商品のカルデラで少しご議論があったと思うんですが、我々の地域では、新幹線開業に向けて、パノラマ展望ツアーというのを企画しまして、県さんや関電さん、黒部峡谷鉄道さんと黒部市が中心となってやったんですが、やはり、立山黒部エリアで商品を作ろうと思った場合、中止基準や雨天時の対応を相当細かく議論いたしました。何か始めるときは、関係者がしっかり議論して、お客様に不満が起らないように。

パノラマ展望ツアーが一月ほど中断するという大変な時期があったんですが、今日からまた再開して、今日からの4日間で五割ぐらいの申し込みがありました。ちゃんとやっているとなんと満足度が維持されるんだと思えます。

【山田座長】

今回検討すべきプロジェクトの説明と各委員の方からご意見をいただきました。ここで、全体を通して、渡辺副座長から講評をいただきたいと思えます。

【渡辺副座長】

私の後に山田座長がまとめられると思えますが、私、専門が観光マーケティングでありまして、そういう目でずっとこの資料を見ていたんですが、今日は、本当に勉強になりました。とりわけ、安全性ということに関して、非常にリアリティのあるお話を伺うことができまして、実際、お客様を富山という、そういう意味ではリスクが少なくない場のお客様をご案内するということの難しさ、リスクを改めて知ることができました。思えば、観光という人の営みには必ずリスクがつきまわっているものでありまして、それは交通機関が入りますから当然のことではあります、やはりリスクがあつて、そのうえで、人々が行動するということなのかもしれませぬ。例えば、環境問題もそうですけど、経済問題に関しても、観光のプラスもマイナスも有効となる活動だと言われています。当然のことながら、人の命というのは、何事にも代えがたいわけで、どんな営みにも勝るものだと思います。そういう意味で今日の話は大変重要だと思います。

ただ一方で、お叱りを受けるかもしれませんが、「立山黒部」世界ブランド化推進会議という視点で見ていたんですが、片やリスク有、片やベネフィットありということで、こういった観光の会議が行われているんだと思います。繰り返しますが、人命というのは、一番大事なんですが、一方で、こういった会議を通じて、観光のもたらすベネフィットというのも決して忘れてはいけないわけで、そのためにこの会議があるのかなという気もします。ですので、当然これは慎重になおかつ科学的に進めていかなければならないというのは、今日いっぱいあったと思うんですが、その中で、観光マーケティングの立場から言いますと、前向きに解決策を科学的に進めていければいいのではないかと思います。

もう一つですが、観光という業務は、様々な立場の方がより集まって、一人の観光客に相對する営みだと思います。そういう意味で、県の音頭でいろんな立場の方が山田先生を中心に集まって意見交換ができるのは、大変素晴らしいことなんじゃないかと思います。お客様から見ると、ひとつの時の流れでいろんな人に会うわけなんですけど、ともすれば、私たち観光に携わる人間というのは、お互いがどんな仕事をしているのか、どんな環境で仕事をしてお客様に相對しているのか、結局忘れがちなんです。ですので、こういう場で情報交換できるのは本当にありがたいことだと、ぜひとも有効に活用すべきかと思います。

最後に、一人でも多く、内外のお客様に富山に来ていただく、立山に来ていただいて、満足をして帰っていただいて、それから口コミを広めてもらって、リピーターを増やすとか、都合のいいことを言いますが、そのためにこの話し合いがあるということを私たちメンバーで考えながら、いろいろ考えていかなければいけないと思いました。大変今日は勉強になりました。本当にどうもありがとうございました。

【山田座長】

渡辺副座長ありがとうございました。時間も押し迫っていますので、手短に。

【立山山荘協同組合 随行者】

ひとつは、いろいろやっていかなければならないんだと、地域全体が共存しないとどこかに問題が出るんです。それともうひとつは、開発してできる部分とできない部分があると思うんです。現実、春先のライフラインは、お金を出せばできるかもしれないけれども、できない部分のひとつに水の確保があると思うんです。こういうものもみなさん分かっているのかなと思いました。

【山田座長】

今回のワーキンググループで、これまでの会議での議論以上に、皆様の本音のご意見、それぞれのお立場、そして、役割に立った中でのご意見をたくさんいただけたと感じております。今回、私たちのワーキンググループというのは、世界ブランド化をどうするのかという中での枠組みでのお話でありましたので、もちろん安全安心というのが大前提にありますし、また、利活用だけではなくて、まさに保全、保護をどうするかというところを非常にバランスよく考えていかなければならない。そんな中で私たちの今後決めていくことに関しましては、我々だけの問題ではなくて、将来世代、未来に対して、非常に責任のある中で考えなくてはならない。しかも、これは後々、今日決めたことがどうなるかということに関しましては、私自身、座長

として、責任感を非常に大きく今日改めて感じております。

私自身考えてみると、今後世界ブランド化で、特に観光という視点で、いろんな方々にご利用いただいて、楽しんでいただいで、満足もいただきたいんですが、実は、観光客から見ると、選択肢は他にもあります。私たちは、この立場からすると、そういった方に来てほしいんですが、では今度来る方から見て、ここを選ばなくてはならない価値であったり、必然性がどこにあるのかとなった時に、まさに今日ご議論いただいたことをもっともっと深めていかなくてはならないのではないかと感じております。これは、特に先程の将来世代という意味では、将来のお客様も、この地に住む富山県民の将来に対しての責任ということ、私はやはり基軸に考えたいと思います。要は、立山黒部の環境とともに将来世代の県民がどういうライフスタイルを築いていくのか、そこには、金銭だけではとても表せないような社会の在り方というのがあると思います。そういった部分で、今後ますますみなさんから忌憚のない多くのご意見をいただきたいと思っています。

この時間だけでは足りないと感じておりますが、またワーキンググループが開かれることになっておりまして、9月を予定しております。細かいことは事務局の方から連絡があると思いますが、今回いただいたご意見を中心に、特に今回各プロジェクトを担当する事務局の方々は十分ご参考にされて、今だけではなく、将来も含めて、まさに世界から認められる、要は、世界からも必要とされる立山黒部の在り方、そして、将来の世代からもあの時にこういう風に決めて進めていただいでよかったと必要性を感じてもらえることを次回のワーキンググループまでにご提言として出していただければありがたいと思います。

今後、タスクフォース、そしてそれぞれの事務局のグループでご検討いただくことも多いと思いますが、その辺を期待したいと思います。

それでは時間がまいりましたので、みなさん今日はご意見だけでなく様々なお考えを示していただき、多くの方々の多様な価値観だと感じました。ご協力いただき本当にありがとうございました。

以上